

現在THKでは、
工作機械や産業用ロボット、
半導体製造装置など
資本財中心のビジネス領域を、
消費財（民生品分野）に
近い分野に広げることを狙い
「新規分野への展開」を
進めています。

既に自動車部品、
免震・制震装置、家電部品などでの
採用を果たしており、
今後もさらなる採用の増加に
努めていきます。

FAI事業部

輸送用機器関連事業の収益拡大に向けて

FAI(Future Automotive Industry)事業部は、THK製品の自動車部品としての採用拡大を目的に1999年に発足しました。その後、同事業の主力製品であるリンクボールは、自動車のスタビライザーとサスペンションをつなぐジョイント部分などの足回り機構の部品として、日本、米州、欧州の大手自動車メーカーに採用され、着実に事業を拡大させてきました。アルミダイカスト一体型成形のリンクボールは、従来のスチール製に比べ軽量ながら高い耐食性、耐摩耗性を実現しており、その性能の高さは自動車メーカーにも認知されています。

THKは新規分野への展開を加速させるべく、2007年5月に株式会社リズム（以下、「リズム」）を連結子会社化しました。FAI事業部にリズムを加え、輸送用機器関連事業として一体となった事業展開を図り、2007年度の売上高は404億円となりました。

リズムとは互いに自動車の足回りを中心とした部品を製造していますが、相互に補完しあえる数多くの強みが存在しています。リズムは、ばらつきの極めて少ない安定した寸法・強度等を実現する鍛造技術や優れた品質管理体制から、その製品は

国内自動車メーカーに重要保安部品として採用され、国内自動車ジョイント部品で高いシェアを有しています。また国内ばかりでなく北米や中国にも拠点を有しています。一方これまでFAI事業部は、アルミダイカスト技術に加え、THKの持つグローバルな生産・販売網を活かし、国内外の自動車メーカーへの納入実績を積み上げてきました。

リズムとのシナジーの追求

今後は、リズムとのシナジーを追求し、世界の自動車マーケットの変化に対して、迅速かつ確に対応することで、存在感のあるサプライヤーとなることを目指します。

輸送用機器関連事業を取り巻く環境の変化として、第一に自動車需要の増大と生産地域の拡大が挙げられます。現在、新興市場での自動車需要が急速に伸びている中、世界各地での積極的な提案営業の展開や競争力のある製品提供に努め、取引先および採用車種の拡大につなげていきます。

第二に、環境規制の強化や原油高の影響などにより、自動車の軽量化、省エネルギー化がますます進んでいくことが考えられます。これまでFAI事業部では、従来のスチール製では実現できなかった軽量化をアルミダイカスト技術によって実現し、燃費性能の向上に貢献してきました。今後はこれにリズムの鍛造技術を組み合わせることで、将来のデファクトスタンダードとなる製品の開発を進めていきます。

このほか、自動車の高性能・多機能化に伴い部品メーカーへの安全性に対する要求水準が日々高まっています。こうしたニーズに応えるべく、重要保安部品を長年提供し続けてきたリズムの品質管理・アフターサービス体制を取り入れ、グローバルな品質保証体制を一層強化しています。

これらの取り組みを通し、THKは輸送用機器関連事業において、ゼロ保証*と独自技術を柱に、デファクトスタンダード製品をもつTier1メーカーとなることを目指しています。

*ゼロ保証：重要不具合ゼロ、納入不具合ゼロ

2007年度の活動状況とその成果

2007年度は、リズムとの協業開始に伴う新たな事業運営体制の構築を最優先に進めてきました。具体的には、日本ではFAI事業部の本体をリズム本社工場に移し、一体的な事業活動を開始しました。米州でも重複した拠点を統合し効率的な販売体制を整備しました。欧州でも、支店にリズムを含めたFAI事業部のスタッフを配属し、販売力の強化を図りました。また、タイには、2007年7月に新たな生産拠点としてTHK RHYTHM (THAILAND) を設立、2008年9月から生産を開始します。

さらに、リズムと一体となった中長期的な営業戦略の立案に取り組み、日本、米州、欧州、アジアにおけるグローバル・ネットワークを活かした地域別、顧客別の効果的な営業展開の仕組みづくりを行いました。

2007年度はこうした取り組みを進めると同時に、リズムと一体となり欧州の自動車メーカーに注力した積極的な販売活動を推進しました。その結果、リンクボールに関して新規採用メーカーの獲得と採用車種の拡大を果たし、前年に比べて受注実績を倍増させることができました。

リズムとの協業をスタートさせて間もなく、リズムとのシナジーを市場から評価していただくことができました。

中長期的な戦略にもとづく2008年度の取り組み

THKは、輸送用機器関連事業セグメントの2010年度の売上高目標を700億円としています。この目標達成のために、リズムとのシナジーを一段と追求していきます。

その中で2008年度においては、リンクボールなどの単体製品だけでなく、THKの主力製品であるLMガイドやボールねじを組み合わせたモジュール製品の展開を強力に推進します。またリズムでは、これまでTHKグループが築き上げてきたグローバルな販売網を活かし、市場ニーズに関する徹底した情報収集・分析を行い、顧客ごとの要望に的確に対応する製品開発を進めていきます。

また開発以外にも、市場が好調な欧州において引き続き事業基盤の強化を図り、様々な製品の採用拡大に努めます。

2008年度はこれらの中長期的な視点に基づいた事業展開を推進しつつ、これまでの取り組みを着実に成果に結びつけ、輸送用機器関連事業セグメントで売上高450億円の達成を目指します。



ACE事業部

可能性の広がるTHKの免震・制震技術

ACE (Amenity Creation Engineering) 事業部は、2001年の発足以来、「快適さを求め、独創的な生活空間を、技術開発していこう」をコンセプトに、THK独自の「ころがり」化技術を活かし、地震の脅威から人々の生命や財産を守る免震・制震装置を販売しています。

THKの免震・制震装置の特徴は、高層ビルから戸建住宅、社寺建築等の歴史的な構造物まで、様々な建築物において十分な免震・制震効果を得られることです。

また近年、企業のBCP (Business Continuity Plan:事業継続計画) に対する意識が高まる中、THKは独自の免震・制震技術のノウハウを応用し、PCやサーバーなどの事業資産を地震の被害から守る免震テーブルを開発・販売しています。この免震テーブルは既存の製品に比べ、地震が発生した際の振動幅が非常に小さく高性能な製品となっています。

2007年度については、建築基準法の改正にともない国内の建築棟数が減少する中、採用数の増加に向けて、全国主要都市

の住宅展示会場などで免震体験車を導入した積極的なPR活動を展開しました。その他、企業向けのサーバー用免震テーブルでは、THK製品の優位性を強調した積極的な販売活動を実施しました。

その結果、THKの免震・制震装置の採用実績を着実に増加させることが出来ました。

BCP関連製品のニーズ拡大と普及・販売活動の強化

2008年度の売上高目標は20億円です。ACE事業部では、この目標達成に向けて、引き続き建設会社や住宅メーカーなどにTHKの免震・制震技術の優位性をPRしていきます。また、一般消費者の方々に対しても、免震・制震装置導入の重要性やTHKの優れた技術・製品をご理解いただくため、従来のセミナー開催等の普及活動に加え、免震体験車をさらに有効活用した販促活動を実施していきます。加えて、企業のBCPに関するニーズが一段と強まる環境の下、サーバー用免震テーブルの拡販に注力していきます。

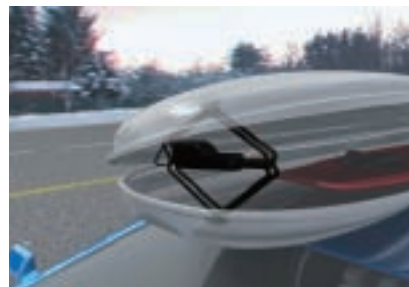


CAPプロジェクト

「くらしの電動化」-THK製品技術を最終消費財へ応用

CAP (Consumer Application Products) プロジェクトは、THK製品を最終消費財へ応用し、新市場を開拓・創造していくことを目的に2002年に発足しました。「くらしの電動化」をコンセプトに、家電製品を中心に、生活環境財、ユニバーサルデザイン機器など幅広い分野でビジネスを展開しています。製品開発においては、既存ニーズに応えるマーケットイン開発だけでなく、未来志向のプロダクトアウト開発も推進しています。

2007年度は、対象分野における自動化が進展し採用機会が拡大する中、開発スタッフの増員と提案件数の増大を図るとともに、プライベートショーの開催など効果的なプロモーション活動を実施しました。その結果、主力製品であるプロジェクター用レンズシフトユニットやクッキングヒーター用スライドレールに加え、新たに血液検査装置用ユニットや農機用アクチュエーターを量産案件として導入することができました。また、有望な市場の一



つと考えているロボット分野においては、積極的に公募プロジェクトに参画して要素機器の研究開発を促進し、ロボットハンドの基礎開発を進めました。

開発製品の拡販に向けた効果的な営業展開
CAPプロジェクトの対象分野である家電製品などにおける自動化の進展により、THKの「ころがり」化技術の導入余地は、一層拡大している状況にあります。

こうした環境下、2008年度は売上高12億円を目標として掲げています。目標の達成に向けて、各地域での採用拡大を図るべく、THKグループのグローバル販売体制を活かして地域特有のニーズに応じた製品提案を実施していきます。また、量産案件となる主力製品の受注拡大に向け、既存顧客における採用機種拡大と新規顧客への採用数の増加に努めます。さらに、中長期的な事業機会の創出を目指し、キッチン、航空機内装、民生ロボット分野を対象とした新製品の開発にも積極的に取り組んでいきます。



MRCセンター

将来の収益源の創出

MRCセンターは、メカトロニクス (Mechatronics) やロボット (Robotics)、さらにはコンピュータ技術 (Computing) を駆使し、世にないものを作り出し、将来の収益の柱となるものを創出することを目的に2000年に発足しました。現在は、今後大きな市場となることが期待されている外科手術支援ロボットや人型ロボットなどの最先端の技術分野に着目し、THKの持つ優位性の応用を図っていきます。

これまでの成果のひとつとして、「ミスターCモーションデザイナー」の開発が挙げられます。これは滑らかな曲線を実現するためのクロソイド曲線 (直線と円をつなぐ緩和曲線) の軌跡制御と、滑らかな運動を実現するための加速度および時間制御の双方を組み込んだソフトウェアで、直線運動案内を得意とするTHKの技術に、精密かつ滑らかな動きのロボットを実現する基盤技術を加えることができました。

2007年度も、大学との共同研究の結果、これまで以上に複雑かつ精緻な動きを実現するメカトロニクスを搭載した外科

手術支援ロボットを開発し、実用化に向けた大きな一歩を踏み出すことができました。また現在では、産学官連携プロジェクトとしてセル生産方式で活躍する人型ロボットの開発も進めています。

実用化への取り組み強化

医療の高度化と高齢化社会の進展に伴う医療費抑制に向けた動き、生産システムのさらなる効率化など、THKが注力している医療および産業分野では、今後確実にロボットの導入が進むと考えられます。

本格的な実用化に向けて、外科手術支援ロボットにおいては、労働安全衛生法が求める安全性の確保や超軽量化、さらにはX線や非磁性対応など、また産業用人型ロボットについては、運動機能の向上や適応制御機能の高度化などを目指しています。

2008年度もこうした課題に対し、THKとして自社の開発スピードを高めるとともに、外部研究機関や協力企業などとの連携を強化し、早期の実用化に向けた動きを加速させます。

